

高校保健・副教材の使用中止と回収を求める会

次から次へと繰り出される人口増加政策キャンペーン、とても見過ごせません。2年後には少子化社会対策大綱の見直しが行われます。そこで少子化対策に関わる情報を吟味、検討していく勉強会を始めました。

＜連続勉強会：「国難」のなかのわたしたちのからだ＞

第1回：書き換えられる女のからだ——またも改ざん？

「女性の年齢と卵子の数の変化」グラフとその言説の検証

「妊娠しやすさは22歳がピーク」グラフのウソが暴かれた……と思いきや、政府・自治体・専門家により「女性の年齢と卵子の数の変化」というおかしなグラフが、拡散されています。その隣には「卵子数の減少が妊娠しにくくなる原因」といった怪しい説や、「妊娠適齢期をふまえた」ライフプラン設計の奨めも…。

「22歳ピーク」グラフもそうですが、これは出典どおりのグラフに差し替えればOK、という単純な話ではありません。少子化対策が「結婚支援」を掲げて人口増加政策であることを自ら明らかにしたいま、国家権力はまことしやかに「医学・科学」を騙って、優しい顔つきでわたしたちのからだ、性、生き方に介入してきています。一緒に考えませんか。

日時：2018年4月1日（日） 14:00–16:30

会場：渋谷男女平等・ダイバーシティセンター・アイリス第1・第2会議室

（渋谷駅西口徒歩5分 渋谷区文化総合センター大和田8F <http://www.shibu-cul.jp/>）

参加費：500円（学生・非正規雇用の方などは300円）

申込み：準備の都合上、なるべく下記へお申込みをお願いします。（先着40名）

プログラム

司会： 柘植あづみ（明治学院大学教員）

報告1 「巧妙になった新・高校保健副教材」

西山千恵子（大学非常勤講師）

報告2 「少子化をめぐる政策のその後の動きについて」

皆川満寿美（中央学院大学教員）

報告3 「ライフプラン冊子には何が書いてあるのか」

田中重人（東北大学教員）

報告4 「卵子数グラフの怪！——女性の人生は「卵」の数にあらず！」

高橋さきの（翻訳者、お茶の水女子大学非常勤講師）

申込み・問合せ先：stopkyouzai@gmail.com

協力：女政のえん